

土木景観の変遷と現在

1960 1970 1980 1990 2000 2010

土木景観の取組と成果

道路機能に関する研究と実践

行政の取組みと橋梁デザイン

景観行政の展開と景観まちづくり

景観による地域の価値向上と競争力強化

景観研究の広がり先進事例登場

シビックデザインと事例の充実

本図は1960年代以降の土木景観の展開を事業者・設計者・景観研究者を取り巻く状況に着目して大まかに表現したものである。土木景観は1990年代のシビックデザインと2000年代の美しい国づくり政策大綱を契機として大きく前進した。それと同時に土木景観の目指すところも土木空間・構造物に限った設計から、都市空間の骨格や地域の構成要素としてふさわしいものへと視野が広がっている。そうした経緯により多様化した土木景観の方向性の典型を「取組パターン」として図の右に概念的に示した。本特集で事例紹介する災害復旧・地域再生・文化的景観については各地で様々な工夫をこらした取組が進んでいる。それらは「土木は社会的要請にどのように応えるか」という本質的課題への取組そのものである。

先進的自治体の景観行政

- 古都保存法(1966)
- 独自条例や要綱による景観行政(1970年代～)

横浜市・神戸市等の景観行政

公共土木事業におけるアメニティ要請

「親しみと潤い」

- バブル景気(1986～91)
- 建設省シビックデザイン導入手法検討委員会(1989)
- 土木学会景観・デザイン委員会設立(1997)

シビックデザイン 高質化・グレードアップ 潤沢な予算

●国の景観施策本格化(モデル事業・マニュアル類)

- 土木学会景観設計三部作出版
- 街路の景観設計(1985)
- 水辺の景観設計(1988)
- 港の景観設計(1991)

- 門司港レトロ口地区(福岡・1993)
- 皇居周辺道路(東京・1995)
- 源兵衛川(静岡・1995)
- 和泉川東山の水辺(神奈川・1996)

都市再生・地域再生

まちなみ整備 合併特例債の活用
小布施町(長野・1980年代～)
金山町(山形・1980年代～)

新しい公共

- 見ノ口公園(愛知・1996)
- 平成の大合併(1995～2005頃)

パブリックインボルブメント(PI)
●道路事業の構想段階PI(2004)

美しい国づくり政策大綱と景観法

- 美しい国づくり政策大綱(2003) 事業における景観形成の原則化
- 景観法(2004)
- 景観アセスメント試行(2004)

景観ガイドライン
道路のデザイン(2005)
河川景観デザイン(2008) 他

土木デザインの規範提示
●土木学会デザイン賞開始(2001)

- 土木学会景観・デザイン委員会設立(1997)

様々な景観材料の開発 ただし玉石混交

コスト削減

土木景観は地域資源・課題の可視化に基づくビジョンの提示とデザインの実践を前提としてきた。これはローカルな作法を計画・設計に取り入れながら全体としての形をまとめることが要求される地域再生の文脈と合致する。

木野部海岸(青森・2003)

土佐くろしお鉄道中村駅
リノベーション(高知・2010)

設計プロセス上流への住民参画

景観まちづくり

文化的景観

- 文化財保護法への文化的景観概念導入(2005)

市民参加・合意形成

通潤用水下井手水路改修(熊本・2012)

景観行政団体・景観計画

景観計画策定数増加

公共空間整備を伴う
景観まちづくり事例の増加

景観計画の定量基準化
(色彩・高さ・緑化等)

北彩都あさひかわ(北海道・2014)

東京駅丸の内駅前広場と行幸通り
(東京・事業中)

トータルデザイン

複数事業による総合的空間整備

- 苦田ダム(岡山・2004)
- 日向市駅(宮崎・2008)

(住民意見を聴いた上での)
プロによるデザイン

個別事業での土木デザイン

設計コンペ・プロポーザル

太田川大橋(広島・2014)

修景としての景観配慮

景観検討体制や費用は十分でないが「景観に配慮した」事実は欲しい

設計を統合するデザイナーの不在
景観検討のタイミングが遅い

手続き化した景観

担当業務としての景観
規定上の必要事項に淡々と対応する

装飾 or 高い材料を使うのが景観との誤解
バブル期の高コスト景観へのアレルギー

土木景観への取組パターン

本特集の注目範囲

土木景観の新たな展開 空間構築方針としての土木景観

災害復旧型
地域の生活基盤を支える空間構造としての風景が壊れた際、地域の営みを踏まえてどのように社会基盤を再構築するか
→余世川水害後の河川再生事業(p.●)
→女川の復興と地域再構築(p.●)

地域再生型
地域資源を顕在化させ、地域の競争力や住民の愛着の基盤となる空間や構造物を、合意形成から維持管理までを含む総合的な観点でどのように実現するか
→青山通り景観維持プログラム(p.●)
→長崎市景観専門監の取組み(p.●)

文化的景観型
ローカルな作法への対応が必須である文化的景観の保全・活用の際、社会基盤に要請される機能との両立をどのように図るか
→四万十川流域沈下橋修復(p.●)

土木景観の王道

トータルデザイン型
複数事業・大規模事業においてデザインチームを作り、一貫性のある空間を創出(トータルデザイン)する

正統派土木デザイン型
計画設計の上流段階から周辺の景観・環境・人の利用等を含めて空間や構造を一体的に検討する。適正な構造と材料で良好な空間を実現する

形式的土木景観

修景・景観材料型
計画設計の下流段階でのカラー舗装・擬木・柵・レリーフ等の採用や、コスト・事業行程に影響を与えない色彩検討等で「景観配慮」とする

基準対応・手続き型
ガイドラインや条例等によって定められた手続きをすすめる事で「景観配慮」とする

アンチ土木景観

景観放棄型
コスト・工期の困難さ、基準欠如、前例がないこと等を理由に景観検討を行わない

凡例

キーワード(赤字) 例 **景観まちづくり**
震災復興

代表的事業(青字) 事業名(所在地・竣工年または活動時期)

関連する出来事(黒字) ●出来事(発生前)

作成：土木学会誌 2016年6月号特集担当班
協力：福島秀哉(東京大学)、井上大介(東京建設コンサルタント)、大波修二(オリエンタルコンサルタンツ)
黒島直一(大日本コンサルタント)、水谷智充(千代田コンサルタント)

21 Jun. 2016

第9回都市+デザインフォーラム
公的空間の再興に向けて～我々が今なすべきこと～
土木景観とパブリックスペースについてのメモランダム

法政大学 デザイン工学部
都市環境デザイン工学科
福井 恒明

1. **土木景観の系譜*1**

- ・ 景観という言葉による行き違い
- ・ 景観評価の様々な観点
- ・ 時代による変遷 [別途配付資料]
 - ① シビックデザインの時代
 - ② 美しい国づくり政策大綱と担当業務としての景観
 - ③ 景観まちづくり～景観デザインによる合意形成
空間構築方針 (architecture for infrastructure and environment) としての土木景観

2. **公共空間における歩行者分布研究**

- ・ 興味の方向性
 - ・ 空間と振る舞いの関係についての環境心理学的な興味
どんな空間や設えに行動が誘発されるのか
 - ・ 高齢化社会における屋外空間/まちの意味*2
「まちあるき」とは本質的にどのような体験なのか
- ・ 歩行者分布研究 (継続中)
 - ・ 時間を止めて都市空間を見る
賑わいづくり施策「発見」マニュアル (国総研) *3
短時間のうちに全ての通りをビデオに収め、あとでデータ化
 - ・ パブリックスペースの滞留*4
コレド日本橋アネックス広場/アーツ千代田 3331 前広場
表参道/秋葉原公園

3. 賑わいとパブリックスペースに関する問題意識

- ・まちづくり＝おしゃれなカフェと洋服屋がある商業開発だと思っている学生達
- ・「賑わい」と対象層
 - 同質属性をターゲット（同質グループの安心感？）
 - 賑わい創出という名のジェントリフィケーション？
 - cf. 昔やった「人情味ある商店街」の研究
- ・（日本における）パブリックの賑わいは幻想なのか？
 - ・イギリスのパブだって実は客層が分かれているらしい
 - ・祭りや神社の縁日（これも地縁か…）
 - ・パブリックスペースとしてのショッピングセンター

参考文献

- *1 土木学会誌 2016年6月号特集「広がる土木景観の役割」
- *2 モウ大喜・福井恒明・福島秀哉：会話内容に着目した街歩き体験の分析（景観・デザイン研究・講演集 No.8（2012））
- *3 国土交通省国土技術政策総合研究所都市研究部都市施設研究室：戦略的ストーリー形成のための賑わいづくり施策「発見」マニュアル（2014）
<http://www.nilim.go.jp/lab/jcg/index.files/nigiwai.pdf>
- *4 萩森大佑・福井恒明：パブリックスペースにおける歩行滞留特性調査手法（景観・デザイン研究・講演集 No.11（2015））